

## 緩やかな回復基調

日本商工会議所が発表した2月の全産業合計の業況DIは、▼17・1と、前月から▼2・7ポイントの悪化。記録的な大雪・寒波による客足減少や物流混乱の影響に加え、深刻な人手不足、鉄鋼や農産物などの仕入価格の高止まり、燃料費の上昇が、広く業況の押し下げ要因となった。他方、電子部品や産業用機械、自動車関連の生産、都市部を中心とした再開発、設備投資は引き続き堅調に推移している。中小企業の景況感は、総じて緩やかな回復基調が続いているものの、足踏み状況がみられる。

業種別では、建設業は、深刻な人手不足や資材価格の高止まりの影響が続く一方、都市部を中心に再開発や設備投資など民間工事が堅調に推移し改善。製造業は、生産・輸出が好調な電子部品や産業用機械、自動車関連が高水準で推移するものの、人件費の上昇、鉄鋼をはじめとした金属材料、農産物などの原材料費の高止まりが幅広い業種の収益を圧迫し悪化。卸売業は、天候不順による供給不足や価格上昇が見られた農産物関連が全体を押し下げたほか、個人消費の鈍さから、売上が伸びないとの声

も聞かれ悪化。記録的な大雪により物流に混乱が生じ、納期に間に合わないとの声も聞かれた。

小売業は、根強い消費者の節約志向に加え、天候不順に伴う客足減少により売上が伸びず悪化。寒波の影響により春物商材の出足が鈍いとの声も多く聞かれた。サービス業は悪化。インバウンド需要は堅調に推移したものの、人件費や燃料費の上昇、農産物の仕入価格高騰に加え、天候不順による客足の伸び悩みが飲食・宿泊業を中心に幅広い業種の業況を下押しした。

先行きについては、先行き見通しDIが▼13・0（今月比+4・1ポイント）と改善を見込むものの実体はほぼ横ばい。消費の持ち直しやインバウンドを含めた観光需要拡大、生産や設備投資の堅調な推移などへの期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響拡大や、原材料費・燃料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、株価急落など不安定な金融市場の影響を懸念する声も多く、ほぼ横ばいで推移する見通し。

（山形商工会議所を含む全国422会議所、3892企業をヒヤリング）